

この冬は暖冬傾向 一時的に大雪も

気象庁長期予報

連日、季節外れの暑さが続いています。気象庁の長期予報によりますと、この冬は日本付近に寒気が流れ込みにくく、全国的に気温が平年より高く、降雪量も少なくなる見込みです。

気象庁は「暖冬傾向を予想しているが、一時的な寒気の流れ込みで大雪になる可能性があるの」で注意してほしい」と呼びかけています

気象庁「気温 平年より高く 降雪量少ない

見込み



気象庁が19日に発表したことし12月から来年2月にかけての冬の長期予報によります

2023年9月19日 発表

と、上空の偏西風が日本付近で蛇行して平年よりも北を流れるとみられ、いわゆる「西高東低」の冬型の気圧配置となるのは一時的なため、東日本、西日本と沖縄・奄美を中心に寒気が流れ込みにくくなる見込みです。

■冬の平均気温は  
▽東日本と西日本、沖縄・奄美で「平年より高い」とみられ、  
▽北日本で「平年並みか高い」と予想されています。

■冬型の気圧配置が弱いことから、期間を通しての降雪量は  
▽東日本と西日本の日本海側で「少ない」と予想されているほか、  
▽北日本の日本海側で「平年並みか少ない」見込みです。

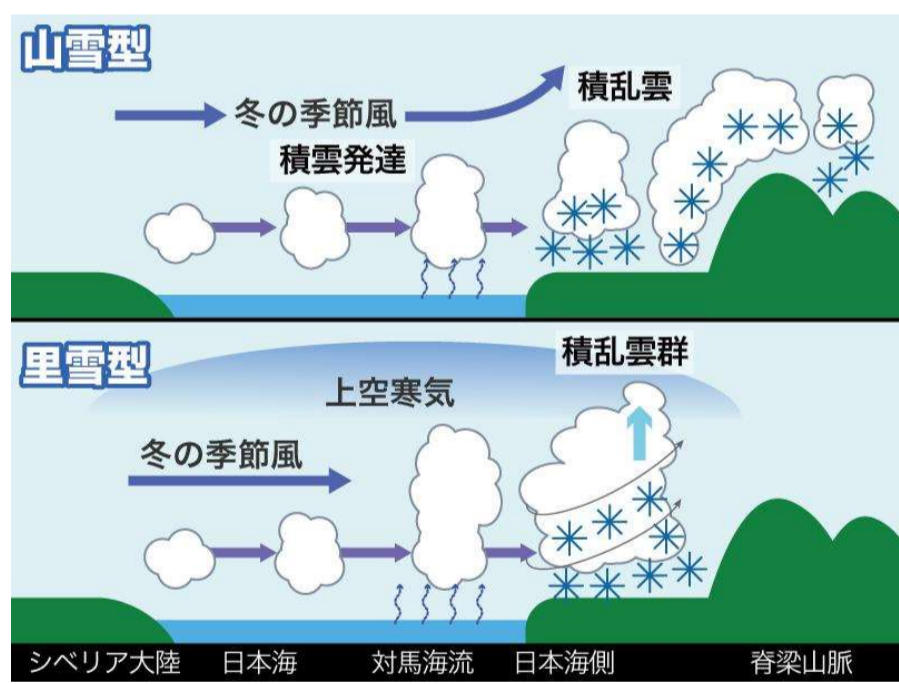
■降水量は  
▽東日本の太平洋側と西日本で「平年並みか多い」  
▽北日本、東日本の日本海側、沖縄・奄美で「ほぼ平年並み」と予想されています

偏西風の蛇行の要因について気象庁は、南米・ペルー沖の赤道付近の太平洋で海面水温が高くなることでインドネシア付近雨雲が発達しにくくなる「エルニーニョ現象」と、インド洋西部で海面水温が上がって雨雲が発達しやすくなる「正のインド洋ダイポールモード現象」の影響だとしています。

この冬について気象庁は、「暖冬傾向と予想している」としながらも、この夏、記録的な高さとなった日本海の海面水温が、冬も平年に比べて高い状況が続くと予想されるため、一時的に寒気が流れ込むと雪雲が発達しやすくなるとしています。

気象庁異常気象情報センターの榎田貴郁所長は「上空に寒気の影響や日本の東で低気圧が発達した場合、一時的な大雪になる可能性がある。最も

新の気象情報に注意してほしい」と話している。



なぜ日本海側は雪が多く降るのか 日本海側の大雪の原因は温かい対馬海流から沢山の水蒸気が発生して雲となり季節風で日本列島まで運ばれ、この運ばれた雲が日本の脊梁山脈にぶつかってさらに上昇し、大量の雪雲に変化するため日本海側に大雪が降るとされる。

「偏西風は」地球を西から東に強く吹く風のことです。

地球は球体であるが故、エリアによっては海水の温まり方が異なります。

海水が暖められることで上昇気流を生み出し、温められた海水はいずれ冷却されるのですが、この時に生じた変化が「偏西風」となるのです。

この現象は、ストローで空気を吹き出すと最初は暖かいのですがだんだんと冷却されて冷たい空気になる現象と同じです。

この気圧差が偏西風の招待で暖かい場所から冷たい場所へと空気の流れが移動する際に生じる温度差が「偏西風」という強い風になります。

「季節風」は、「季節によって吹く方向を変える風のこと」という意味があります。

大陸と海洋の温度差が原因で起こる現象で、平均して、冬は大陸から海洋に向かって吹き、夏は海洋から大陸に向かって吹きます。

東南アジアやインドに「季節風」が吹きやすく、乾季や雨季が生じる理由となっています。

アラビア海では、夏になると南西の風が吹き、秋から春にかけては、北東の風が吹きます。

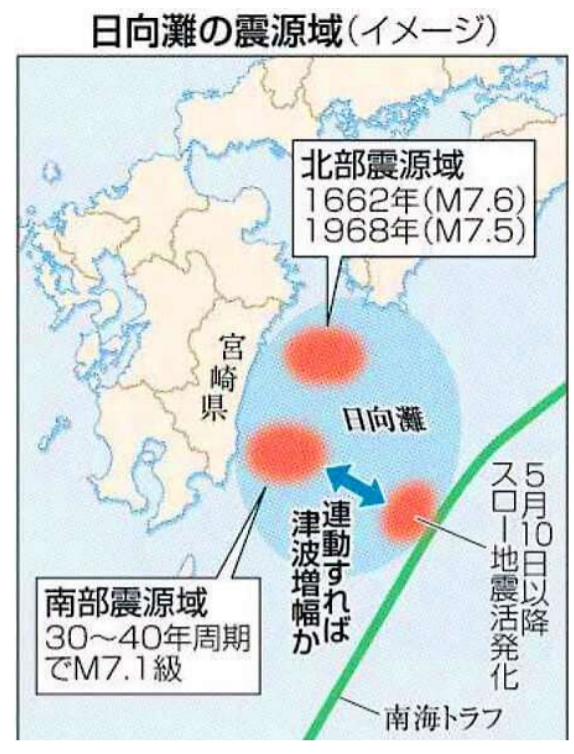
このことが、沿岸諸国の海上貿易や海上交通に、大きな影響を与えていました。

このことから、アラビア語の「季節」を意味する、「マウスィム」という言葉が、「モンスーン」という言葉になり、「季節風」と訳されています。





最近世界各地で地震が発生をしています。新聞でも南海トラフ地震、富士山噴火、首都直下型地震などを警戒ニュースが掲載されています。



大分県に関係のある過去の地震

① 日向灘地震

② 南海トラフ地震

③ 周防灘地震

④ 別府湾・日出断層地震

■過去の日向灘地震発生時期

1498年日向灘地震

1662年日向灘地震(164年後)

1796年日向灘地震(134年後)

年月日	マグニチュード
1929・5/22	M6.9
1931.11/2	M7.1 【3年】
1939.3/20	M3.9 【8年】
1941.11/19	M7.2 【2年】
1968.4/1	M7.5 【27年】
1969.4/2	M6.5 【1年】
1970.7/26	M6.7 【1年】
1984.8/7.	M7.1 【14年】
1987.3/18	M6.6 【3年】
1996.10/19	M6.9 【9年】
1996.12/3	M6.5 【0年】
2002.11/4	M5.9 【6年】
2006.3/7	M5.5 【4年】
2022.1/22	M6.6 【16年】

※過去100年以内M6.0以上は26回  
大分県では、一番発生している地震が日向灘地震。

1596年慶長豊後灘地震(別府湾)

別府湾にあった久米島と瓜生島(沖浜と呼ばれた海岸の港町)が沈んだといわれています。古文書によると以下の地域に津波が押し寄せています。

- 杵築市 奈多八幡社 (約6m)
- 別府市 10号線付近(約4.5m)
- 大分市 沖浜プラザ(春日浦)(約4.5m)



1707年宝永地震(宝永4年南海地震)

古文書より予測した津波の高さ

- 安岐町 賀茂神社(約4m)
- 杵築市 奈多八幡社(約6m以下)
- 杵築市 納屋(漁村)(約4.5m)
- 大分市 上野丘陵あたり(約4.5m)
- 大分市 原浦(約4m)
- 臼杵市 臼杵石仏(約10m)
- 臼杵市 荒田地区(約4.6m)
- 佐伯市 米水津(養福寺)(約11.5m)

1854年 安政南海地震

1946年(昭和21年)南海地震

南海トラフ地震の発生確率70.80%、2030年で発生すると予想



周防灘地震

「周防灘断層帯主部区間」

地震の規模... M7.6程度  
地震発生確率... 今後30年以内に、2%、4% (地震発生確率値の留意点)  
平均活動間隔... 概ね5800年、7500年  
最新活動時期... 約11000年前以後、約10000年前以前



三浦梅園生誕300年祭りイベント  
「天地万物にコトワリ有り」

\*\*\* 梅園先生からのメッセージ\*\*\*



10/13(金)9:00、開会式があり、その後安岐中央小学校6年生、安岐中学校1年生による発表がありました。今回の発表のために西武蔵の梅園資料館で岩見館長から説明を聞き勉強をして一人一人の役割で勉強の成果を発表しました。良く理解できる内容でした。

その後、別府大学特任教授(飯沼 賢司先生)、福岡教育大学名誉教授(平井正則先生)の講演がありました。飯沼先生は、国東の地での梅園先生の活動を羅漢寺の禅海和尚の青の洞門を開通した内容を記述して記録が残っている等の話をされました。

平井先生は、杵築藩の麻田剛立との天文学についての講演をされ、昔の暦を作成するために太陽の影を観測して正確に夏至や冬至等の日にちを突き止めた話をされました。前列に一般の見学者、後列に小学生、中学生が熱心に発表講演を着ていました。市文化財課のスタッフの方々の準備で、講演会も盛況に終わりました。